



vol.97

2025年
5月31日
発行

日本山岳会

「高尾の森」



通信

— 広針混交の豊かな森づくり活動 —

会員数：個人 163 名 法人 8 社
(2025 年 4 月末現在)

2月の定例作業日、
4月の植樹祭に向けた植栽地整備の追い込みで力が入ります。
ですが植樹祭直前の天気予報では当日は確実に雨・・・。
さて、植樹祭はいかに？



2025.2.8の定例作業日より



キクザキイチゲ

キンボウゲ科イチリンソウ属の多年草。

近畿地方以北と北海道地方に分布する高山植物。高さは10～20cmほど。

3～5月に花茎の先端に直径3cm程度の花が1輪のみ咲く。

初夏になると地上に出ている部分は枯れ、
その後は翌春まで休眠期で地下茎で過ごす。

絵：横川 信由

<http://JACtakao.net>



「雨でも負けない!!」春の植樹祭

2025.4.13(日)



フィールド担当 早川憲也

今年の植樹祭は昨年とほぼ同様に進めますと安直な準備の下、サクサクと準備を進めてきましたが、直前になって天気は壁に阻まれました。昨年の好天を約束された天気予報とは打って変り10日前から雨が約束され、悩みぬいた結果本番2日前の朝に「小雨決行」を判断しました。

本番当日の朝、小雨が降る中を歩き8時頃ベースに着くと既に一番乗りのスタッフがいて、なんでも前日の準備に心配点があったとか? そのあと他の人たちも集まり、朝早くから精力的に雨に向けた準備を進めてくれました。

雨で植樹作業自体がどうなるかわからない状況でしたが、参加した諸先輩からは「常に安全第一で判断しなきゃだめだ」でも「参加者には出来るだけ満足してもらえるように推進しよう」といった色々な意見を頂きながらの進

行となりました。

当初計画していた内容とは随分と相違した進行になりましたが、植栽地での植樹には参加者全体の2/3である、一般と法人会員が30名、個人会員が32名の合計62名が参加し、240本用意した苗木のうち約150本を植樹することができました。

小雨が降る中12:00まで植樹を行いその後ベースに戻ると、キッチン班によるクリームシチュー、チーズ煮、山

菜取りツアーの皆様による山菜の天ぷら、ベース班と有志の皆様によるつきたての餅、そして法人の皆様から頂いた数々の差し入れが用意されていて、たくさんの料理を堪能しながらの懇親会は、悪天候にも負けないエネルギーを感じました。

なお、残った苗木の植樹とツリーシェルターの設置は、4月の物づくり班の作業、定例作業等により全て実施いたしました。



雨の中での会場設営作業



テントの中での懇親会



Jパワーの皆さん

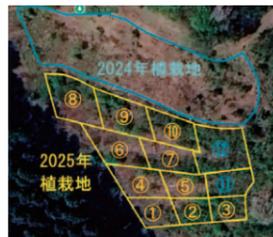


伊藤ハム米久HDの皆さん



参加者	大人	子人	合計
一般	5名	—	5名
法人会員	35名	2名	37名
個人会員	48名	—	48名
合計	88名	2名	90名

エリア	植樹木	本数
①, ③	ヤマグリ	40本
②, ⑦	カツラ	40本
④, ⑨	オオモミジ	40本
⑤, ⑩	イタヤカエデ	40本
⑥, ⑧	ヤマザクラ	40本
⑪	コナラ(山引き苗)	20本
⑫	ケヤキ	20本
合計		240本



この植樹祭は「公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会」の助成を受けて実施しました。

植樹祭に参加して

雨に植えれば! — Planting in the rain! —

(株) エリオニクス 堀田昌直

4月13日、高尾の森で催された植樹祭に私どもエリオニクスからは法人会員として初めて8名が参加させていただきました。

当日の予報は「100%雨」と出ておりましたが、観天望気に秀でた方が居られるようで、「この地形からして高尾では降っても小雨、予定通り開催可能」との見立てがあり、それを採用した実行委員はまさに戦に臨む武将の心境であったでしょう。実際、当日は曇りから霧雨、小雨、中降りと変化したが、苗木にとっては絶好の「植えられ日和」。植樹作業では雨の冷たさを感じず心地よく作業を終えることができました。欲を言えばあと30分ほど作業ができればさらに充実感が得られたかもしれません。

ベース小屋に戻ると、そこにはつきたての餅と、海苔・餡・きな粉・納豆の“和風カルテット”をはじめ、山菜の天ぷら、シチュー、フォルマジヨッタなど、夢のようなご馳走が並んでおり、持参したむすびの出る幕はありませんでした。



エリオニクスの皆さん



今回の急傾斜の植栽地は会員の皆様が悪戦苦闘して除伐、整地作業を実施した成果であり、当日の一般参加の植樹作業を事故なく遂行し、さらに雨中での食事準備から後片付けという大規模高密度の仕事を自然体で流れるように運営している姿に、強い組織力と温かい人のつながりを感じ、貴会の底力に深く感銘を受けました。皆様から受けた多大なお心遣いに感謝申し上げます。神輿は輝いていれば必ず担ぎ手が集まるでしょう。昼間の喧騒の余韻を残す小下沢のベース小屋を思いながら、高尾の森づくりの会がいつまでも輝く神輿であり続けることを祈念いたします。

数十年後の未来につなぐ植樹で豊かな森に

富士電機(株) 千木良誠

「高尾の森づくりの会」の皆様、植樹会では大変お世話になりました。おかげさまで当日は大変楽しい時間を過ごすことができました。

雨の植樹祭は初めてなのでどうなることかと思いましたが、「植樹地まで行ってみますが、雨なので植樹ができるかは現場判断となります。安全第一です。」との説明が有り、準備体操をして植樹地へ移動しました。足元に気を付けて山を登ること30分で植樹地に着くと幸運にも小雨となり、植樹をすることになりました。急な斜面で足元に気を付けても滑る中「イタヤカエデ」を植えました。クワで穴を掘り、苗を植え上に土を盛り、土を踏んで固め、シェルターをかぶせます。シェルターは苗木をシカなどの被害から守るためだそうで、シェルターの



富士電機の皆さん

設置は今回初めてでした。

植樹後ベースキャンプまで20分ちょっと斜面を降りました。下りは上りよりもさらに滑るので足元注意。誰も怪我をせず無事にベースキャンプに戻りました。ベースキャンプでは既に懇親会の準備ができており、直ぐに懇親会が始まりました。会員各社からの差し入れも含めおいしい料理に堪能することができました。今までにない雨の中での植樹でしたが、思い出に残る植樹祭となりました。

当日植えた「イタヤカエデ」は成木するとメープルウォーターが取れるそうですが、そこまでに50年かかるそうです。50年後の高尾の森がさらに素晴らしいものになるよう少しでも貢献していきたいと思います。



五感を駆使して野山を歩こう

植生調査報告



生態調査班 小木曾裕子・千谷恵子

野山を歩くとき花に出会おうと思わず頬が緩み、小鳥のさえずりを耳にすると爽やかな気持ちになります。生態調査班は毎月第一水曜日に会の活動エリア付近、近隣の山野を歩きながら植物、動物、地質等を観察しています。2024年度は高尾山付近4回、木下沢林道・小仏川流域3回、日の出野鳥の森公園、山梨県の大菩薩嶺、乙女高原（25年ほど前に設置された柵により植物が守られている）等を調査しました。調査時は漫然と歩きながら木や花を眺めるのではなく、五感を使うことを心がけています。

- 視覚：樹形、樹皮（滑らか、ガサガサ）、枝や葉のつき方（対生、互生）、花（内部はルーペで観察）
- 嗅覚：葉や花のさわやかな香り（クロモジ、ミズメ）、不快な臭い（ヒサカキの花）
- 味覚：美味（モミジイチゴ）、苦味（センブリ）、辛味（サンショウ）
- 触覚：葉の軟毛が気持ち良い（ヤブムラサキ）、トゲが痛い（サンショウ、ハリギリ）
- 聴覚：小鳥の囀り、鹿や猿の鳴き声

名前を覚え特徴を記憶することで山野を歩く楽しみが増していきます。

今回は2024年度の調査の中で春の小下沢と夏の乙女高原の2つの事例を紹介します。

春の小下沢

4月は日頃歩いている林道をゆっくり散策して春の草木を観察するという企画です。梅林を抜けると、アブラチャンの黄色い小花があちこちで満開。アケビの花も野木場のフェンスに絡まって咲いていました。ヌルデの赤

い新芽も可愛い。カキドオシ、ミミガタテンナンショウ、カテンソウ、ヤエムグラ、ヒメウズ、ジロボウエンゴサク、ミヤマキケマン、ムラサキケマン、ヤブヘビイチゴ、ユリワサビ、ニリンソウ、イチリンソウ、カンスゲ、オオ



ハシリドコロ



ハナネコノメ

イトスゲ、セントウソウ、サラシナショウマ（葉が3枚一組で27枚）、ウラシマソウ、ハシリドコロ（釣鐘状で紫紅色の可憐な花をつけていましたが毒性が強く食べると錯乱して走り回って苦しむことからついた名前）、ヤマトリカブト、ヘビイチゴ、コンロンソウ、カントウミヤマカタバミ、エンレイソウ、ヤマドリソウ、イラクサ（刺が鋭い）、テイカカズラ、ヤマネコノメソウ、ヨゴレネコノメ、ハナネコノメ等が小屋までの林道で見られました。スマレでは、ナガバノスマレサイシン、タチツボスマレ、マルバスマレ、エイザンスミレ、アオイスミレ、コスミレ等。シダ類では、クマワラビ、イノデ、ジュウ

モンジシダ等10種以上を確認しました。

5月は雨の中2第ゲートから先の調査でした。4月に咲いていた花はほとんど終わり、樹木では、ガクウツギ、ヒメウツギの花が見ごろ、マルバウツギは蕾、チドリノキがプロペラ形の種子をつけ、イタヤカエデの幼樹が林道わきに多く芽生え、川淵のホオノキは大きな葉を開いていました。雨の中を歩きながらも木々の新緑に癒されました。林道終点近くには、ダンコウバイ、コゴメウツギ、ツクバネウツギ、ウラジロノキ、パイカツツジ、フモトスマレ等下流域では見られなかった植生が確認されました。木本91種、草本141種を記録することができました。

夏の乙女高原

8月は涼を求めて標高1,700mの乙女高原に行ってきました。鹿の食害により何も無い草原になっていたこの地は25年程前柵を設けることで植生を回復させてきたということです。柵の外側は鹿が食べた後の短いササ、食べないマルバタケブキとツツジのみでした。柵の中に入ると一面の花畑。木も草も太く、高く真っ直ぐ伸びていました。コハウチワカエデ、ツノハシバミ（角の形の実はまだ青いが熟すとヘーゼルナッツの香）、オオカメノキ、シラカンバ、ダテカンバ、ヤエガワカンバ（絶滅危惧種、樹皮が幾重にも剥離するので八重皮樺）、カラマツ、サルナシ、ウラジロモミ（葉の裏の気孔帯が白く葉の先が割れていない）等。



乙女高原草原

足元には、トリカブト、エンレイソウ、イワカガミ、シモツケソウ、マイズルソウ、フシグロセンノウ、ヤマオダマキ、ハンゴンソウ、アマドコロ、ノコギリソウ、リンドウ、オオバギボウシ、ワレモコウ、ヤマハハコ、ヨツバヒヨドリ、キンミズヒキ、オトコヨモギ、ノハラアザミ、コオニユリ、コシアブラ、マタタビ、ヤマブドウ、ニシキウツギ、ノリウツギ等数えきれないほどの草花が目を楽しませてくれました。



ヤエガワカンバ



ヤナギラン

その後の散策路ではシラネセンキュウ、ノゲシ、ウスユキソウ、キオン、オオハンゴンソウ、オミナエシ、ウド、ヤマニガナ、コウゾリナ、カラマツソウ、コウリンカ、オヤマボクチ、キリンソウ、ヒメトラノオ、ヤマラッキョウ、クガイソウ、ホタルサイコ、ツリガネニンジン、シラヤマギク、クルマバナ、タチフウロ、ヤナギラン、アキノタムラソウ、キツネアザミ、

マツムシソウ等を確認しました。誌面の都合上特徴的な山野草と樹木を紹介しました。

この様な調査活動に興味がありましたら、是非ご連絡ください。

2月活動日記

今月は体操のオジサン?



体験の指導は仁藤事務局長

●板当の植栽地整備は残すところあと2か月。参加者の皆さんはパワー全開ッ!

●ものづくり班の活動日にベースを覗きに行くと、小屋裏の底の改修作業やら、小屋前のテーブルづくりやら、かと思えば別の日には小屋前のベンチの土台をチェーンソーで丸太から切り出して作り直したり、丸太で椅子を作ったり。やることたあ〜くさん!



板当のお昼のひと時 ホッ!



下山後のお楽しみはおでん!

温まるう〜



もくじ

- 春の植樹祭.....02
- 植樹祭に参加して.....03
- 植生調査報告.....04
- 2月活動日記.....06
- 3月活動日記.....07
- 4月活動日記.....08
- 高尾の森に棲む昆虫たち.....09
- 【連載】安全作業のすすめ.....10
- 山、行ってきました.....11
- 山口竜朗さんを偲んで.....11
- 新会員紹介.....11
- 事務局からのお知らせ.....12



小屋裏の底の改修作業



段々とできてきた



新しいテーブル完成!

キレイになったかな?



ベンチ土台の切り出し



丸太の椅子作り

3月活動日記

●植樹祭を1か月後に控え植栽地整備は最後の大詰め。なのでチョット残業だったりして。そんな疲れ切ったところに大粒の雪がッ! 皆さんお疲れ様でした。

●ベース小屋裏の底は雨樋も付けられ、Completed!

雪が降る中で



今月の体操のお兄さん



掛矢の似合う男! どお?



「高尾の森と生き物たち展」報告

小木曾裕子



3月24日から30日までの7日間、高尾599ミュージアムにて「高尾の森と生き物たち展」を開催しました。春休みということもあり多くの家族連れで賑わいました。また、今年は近隣のガールスカウトやボーイスカウトに加えて学童や小学生の団体にお越しいただきました。「ここは面白い!」と各々1時間近く滞りながら動物映像や触ることのできる横川コレクションに興味シンシン。積み木やパズル等の遊びを通じて木の温もりも感じていただきました。



下山後のお楽しみ!



4月活動日記



今月の体操のお兄さん

D班出発前、もしかして初登場?



ツリーシェルターの機材



ヨゴレネコノメ、見頃です

●植樹祭前日の作業は植樹場所のポール立て。通常ならばこれで終わりですが、翌日の天気予報が雨で植樹できない可能性もあるので、植樹の練習を兼ねて一般の人には少し危険な急傾斜の植栽地で植樹を行いました。



植樹祭の準備完了!

こんな感じでどお?



下山後は?
みかん食べ放題!



高尾の森に棲む昆虫たち

連載 第3回



前回は、高尾の森に棲む昆虫たちの餌についてお話ししましたが、今回は昆虫たちがどのように餌を食べているのかについてお話しします。我々人間は口で色々な食物を噛(か)んで食べていますが、昆虫は噛んで食べるものだけでなく、吸って食べたりするものもあります。昆虫の口の形状タイプは大きく分けると次の3つに分かれます。(1)トンボやバッタなどの噛んで食べるタイプ (2)チョウやカメムシなど吸って食べるタイプ (3)ハエやカブトムシなど舐めて食べるタイプです。また、特殊なものとしては、第1回で紹介したゾウムシといった口の長い仲間やカゲロウ類のように成虫になると口がなくなるものも存在します。昆虫を観察する場合には、色や模様だけではなく、形の面白さもあり、口の形状からどのようなものを餌としているのか想像してみるのも面白いかもしれません。そこで、今回は昆虫の口に注目しながら紹介します。

岡西宏之



ミヤマアカネ

トンボ目トンボ科

- 体長: 30 ~ 41mm
- 出現時期: 6 ~ 11月

翅の先端付近にある褐色の帯が特徴的なトンボ。咀嚼(そしゃく)する口を持っており、小昆虫を食べる。



ビロードツリアブ

ハエ目ツリアブ科

- 体長: 7 ~ 11mm
- 出現時期: 3 ~ 6月

春先に花の蜜を吸う為にホバリングしている様子を観察できる。口はストロー状になっており、花の蜜を吸うのに適した形となっている。



ダイモウセセリ

チョウ目セセリチョウ科

- 体長: 30 ~ 40mm
- 出現時期: 4 ~ 10月

白い紋様が特徴的なチョウ。口はストロー状であり、花の蜜を吸う。幼虫はヤマノイモ科の植物を食べる。



カクムネベニボタル

コウチュウ目ベニボタル科

- 体長: 7 ~ 13mm
- 出現時期: 3 ~ 7月

カブトムシのような舐める口を持ち、花の蜜などを餌とする。赤い背中が特徴的で外見が似た種が多く存在する。



モンキツノカメムシ

カメムシ目ツノカメムシ科

- 体長: 11 ~ 14mm
- 出現時期: 4 ~ 10月

ストロー状の口をヒサカキの実に突き刺し、吸汁する。写真は雌成虫が卵の塊を保護している様子。このようにカメムシの中には子を保護する種も存在する。



フタスジモンカゲロウ

カゲロウ目モンカゲロウ科

- 体長: 約 13mm
- 出現時期: 5 ~ 10月

カゲロウの仲間は口が退化しているものも多く、口が無い。成虫になってからは何も食べない為、短命である。

参考文献 梶 真史 . 2013, 日本の昆虫 1400 ①チョウ・バッタ・セミ. 文一総合出版 . 320pp.
梶 真史 . 2013, 日本の昆虫 1400 ②トンボ・コウチュウ・ハチ. 文一総合出版 . 320pp.
丸山博紀・花田聡子 . 2016, 原色 川虫図鑑 (成虫編) . 全国農村教育協会 . 488pp.

安全作業のすすめ……その7

ハチ・救急 対策研修担当 森中大晴

—これまでの振り返り—

昨年度の当会活動時の事故・ケガは、ハチ刺傷3件、マダニ咬傷2件、足の捻挫2件、落石による打撲1件が発生しています。今年度は1件でも事故・ケガを減らすこと、事故・ケガ発生時の適切な対応ができるように、これまで高尾の森通信に掲載してきた安全作業のすすめを振り返りたいと思います。

■ハチに刺されないためには

(通信 2023年5月第88号、2018年5月第70号より)

ハチは黒い色を敵の急所と認識し攻撃してきます。このため黒色の服装は避けましょう。また、一部の香料にはハチを攻撃的にする物質が含まれていることがあるため、活動時の整髪料や化粧品などは控えましょう。

ハチに遭遇した場合は、ハチを刺激しない行動を。単独で餌を探しているハチであれば、こちらがちょっかいを出さなければ刺されることはありません。目の前まで来てもしじと我慢します。しかし、ハチが突っかかってきたり、大顎をカチカチ鳴らしたりするなら、姿勢を低くしてゆっくり遠ざかります。



ここポイント! 下草刈り等で下ばかり見ていると、木の枝のハチの巣を見落としがちです。常に周囲の確認を行いながら作業を進めてください。

■熱中症を予防するには

(通信 2024年5月第93号より)

熱中症予防には日頃からの体調管理と暑熱順化が重要です。適度な運動や入浴で徐々に体を暑さに慣れさせましょう。持病のある方や服薬中の方は特に注意が必要です。屋外活動や作業時は無理をせず、こまめな休憩を心がけてください。気温や湿度が高い日は、通気性の良い服装を選び、日差しを避ける工夫をしましょう。喉が渇く前から、水分と塩分を意識的に補給することが大切です。

ここポイント! 暑熱順化は今から(5月下旬～6月頃)始めましょう。方法は、やや暑い環境で、無理のない範囲で体を動かす。湯船に浸かる入浴をするなど、汗をかく習慣をつけること。体が暑さに慣れるには数日から2週間程度かかるため、本格的に暑くなる前から徐々に時間や強度を上げていきます。

■マダニに咬まれないようするには

(通信 2023年8月第90号より)

マダニはシカ等の野生動物が出没する場所に多く生息します。活動時は長袖・長ズボン・手袋等で肌の露出を減らし、袖や裾が締まった服装を使用するようにします。市販の忌避剤は、服装による防御と併用することで効果を高めます。休憩の際は衣服を払い、敷物を利用するなど有効です。



ここポイント! 帰宅後はすぐに入浴してマダニを洗い流し、特に頭髪内、耳周り、脇の下、鼠径部などに刺し口がないか念入りに確認してください。衣類は早めに洗濯し、家への持ち込みを防ぎましょう。

■打撲や捻挫の応急処置

(通信 2024年7月第94号、2020年2月第77号より)

打撲や捻挫の応急処置はRICEが基本です。まず患部を動かさず安静(Rest)にし、氷嚢などで冷却(Ice)しながら腫れや内出血を確認します。次に、伸縮包帯やテーピングで適度に圧迫・固定(Compression)し、患部を心臓より高く挙上(Elevation)しましょう。これらの処置後も痛みが強い場合や症状が悪化する場合は、速やかに医療機関を受診するようにします。

ここポイント! 応急資材はすべて救急バックに常備されています。時間のある時に何が入っているか見ておきましょう。

お知らせ

★6月の定例活動後、今年もポイズンリムーバーを使った応急処置講座を開催します。

山 行ってきました

冬の八ヶ岳、大満喫です!

菅野晃希

2月の定例作業の翌日、八ヶ岳に2泊3日のテント泊で行って来ました。赤岳鉱泉を基点に赤岳・横岳・硫黄岳を周回し、稲子湯まで下る行程です。

初日は山の先輩と合流し赤岳鉱泉の人工氷瀑“アイスキャンディー”でアイスクライミングを楽しみ、夜はテントで宴会です。テントはショベルで整地し竹ベグで張ります。全身ダウンを着込みます。-15℃でも中は意外と暖かく、周りに雪の壁を作るとなお良しです!

翌朝、12本爪アイゼンとピッケルを装備し先輩に見送られて八ヶ岳最高峰 赤岳へ出発です。天気は曇り。ガスの中を一人黙々と登ります。踏み跡のあるやさしい急登が続きますが、山頂直下の鎖場では鎖が揺れるほど強い風が吹き上げる

ので頑張りました。なかなか雲が取れず周回は断念を覚悟しましたが最後の岩塊を登り切ると、雪で真っ白に凍った山頂が青空の下で光っていました。雲は切れたりかかったりを繰り返して八ヶ岳の稜線、アルプスの山々から富士山までを見渡せます! その動きの激しさに圧倒されます。雲は次第に下へ下へと低く落ちていき、横岳に至る稜線を進むとブロッケン現象が現れます。地蔵の頭付近では耐風姿勢をとるほどの強風が吹き荒れて硫黄岳までアドレナリン全開です!!

夏も冬も八ヶ岳はとてまかついいです。小屋にいたクライマー達にも刺激を貰いました。今回も雪山でしか得られない栄養をたっぷりチャージしてきました! また来れるように下界でコツコツ頑張ります。

山口竜朗さんを 偲んで

白沢紀明



その訃報はなんの前触れもなくメールで届いた。頭の中が真っ白になった。まさか山口さんが森林作業で亡くなるなんて。報告書を読むとその時の状況が克明に描かれていて、その時の山口さんの気持ちを考えるととても無念であっただろう。

山口さんがこの会に入会されたのは2014年の春頃であったと思う。年齢も私と近く当時の私世代は参加者が少なかったのも心強く思ったものだ。チェンソー倶楽部と一緒に訓練したこともあった。話すときさくで私たち道具班のメンバーともすぐに仲良くなった。彼は7年くらい前に突然長野で林業をやるといって移住しプロの道へと足を踏み入れた。そんな彼が3年前に一度定例作業に顔を出し一緒に機械班で作業をしてくれた時はとてもうれしく、身なりが一端の木こりになっていてとてもまぶしく見えた。また一緒に作業して色々プロの世界を聞いてみたかった。そんな彼がこんな事になり本当に残念でならない。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

田所和明です

新 会員紹介



新たなことに挑戦、 森林の中で楽しい時間を

小さいころから運動好きで、部活動でサッカー、ラグビー、スキューバダイビングなどを楽しんできました。趣味は読書、バイクツーリング、スポーツ観戦、温泉十史跡巡り。ただ、スギ花粉と高所はちょっと苦手で、山とは無縁の人生を送ってきました。

今年4月にこの会に入会しました。なぜかという、新しいことに挑戦したかったからです。それと同時に、ボランティア活動に興味があり(誰かの役に立ちたい気持ち)、友人の誘いもありました。ちなみに、杉花粉を少しでも減らせるかもしれないという期待もあります。体験入会では数十年ぶりにこのごぎりを使って筋肉痛になりました。それでも、鉋を研いでいるときは不思議と無心になれるなど、普段の生活では気にしないような新しい発見もたくさんあり、楽しい時間を過ごせました。

これからは森の保全に少しでも貢献できればと思っています。森林の中での活動は、日常の喧騒から解放されるいい機会ですし、みんなで協力して自然環境を守っていきたくて考えています。

活動記録

- 2/8 定例作業 (会員50名、法人2名、体験2名)
- 3/8 定例作業 (会員54名、法人1名)
- 3/24～30 高尾599ミュージアム「高尾の森と生き物たち展」
(来場者数680名数、会員延べ42名)
- 4/12 定例作業 (会員55名、法人1名)
- 4/13 植樹祭 (会員48名、法人57名、一般5名)
- 4/20 京王親子森林体験スクール 1回目
(親子31名、京王3名、会員24名)

会員動向

入会：ようこそ

十河三郎さん、峠原直美さん、田所和明さん

退会：お疲れ様でした

<個人会員>

相川正さん、小野寺一元さん、加藤春男さん、合谷周子さん、竹内信彦さん、辻川光雄さん、東蒼生さん、藤川裕子さん、山口竜朗さん、山崎喜春さん、

<法人会員>

グローリーエンジニアリング(株)さん、ささえあグループ フジタ製薬(株)さん、専門学校 トヨタ東京自動車大学校さん

寄付金

2025年3月末に(株)京王百貨店様よりご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

訃報

山口竜朗さん(60歳)が昨年12月2日 逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

大塚代表の **チョット** 活動で見つけたいい話

前号に引き続き、

当会活動への女性のお力添えの広がりが有りました。小木曾さんにもものづくり班のリーダーを引き受けて頂きました。これまで、ものづくり班を支えて頂いた前任の本山さん、ありがとうございます。お疲れ様でした。

活動実績と予定

- 5/10 定例作業
- 5/10,11 第34回緑の感謝祭
(高尾599ミュージアム)
- 5/18 京王親子森林体験スクール 2回目
- 6/8 京王親子森林体験スクール 3回目
- 6/14 定例作業
- 6/15 八王子環境フェスティバル
(東京たま未来メッセ)
- 6/22 2025年 総会 (八王子 生涯学習センター)
- 7/12 定例作業

幹事会報告

(詳細はホームページ会員専用ページを参照ください)

◆ 2月

協議事項 植樹祭・ホームページ刷新・都有林活用に関して、他

報告事項 ベース小屋前のテーブル、ベンチの改築、助成金申請状況報告、599ミュージアムイベント予定、他

◆ 3月

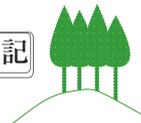
協議事項 3月定例作業予定、植樹祭について、他
報告事項 都有林活用に関して、京王親子森林スクール準備状況、新ホームページの構築状況、森林管理署へ提出予定の2025年度計画書、他

◆ 4月

協議事項 4月定例作業予定、植樹祭について、他

報告事項 官庁対応状況、今後のイベント予定、ベース小屋内のレイアウト変更、ものづくり班リーダー変更、他

編集後記



今回は寄稿者の皆さんが早めに原稿を送っていただいたので、予定よりだいぶ前倒して編集作業ができました。感謝です。というのもこの会報誌の編集作業期間が、ちょうどゴールデンウィーク(GW)中で、またGWは毎年恒例の春山の計画もありで、予定が混み合っています。で、春山は北アルプスの蝶ヶ岳・常念岳に行ってきました。今年も天気恵まれ、最高!でした。[大島徹]

